

## 平成27年度香川大学卒業式 学長告辞

皆さん、卒業おめでとうございます。

香川大学の教職員を代表して、お祝い申し上げます。

皆さんを支援し、この晴れの日を心待ちにしておられたご家族や関係者の皆様方にも、心からお祝い申し上げます。

また、同窓会、後援会を始めとした関係者の皆様には、ご多忙の中、ご列席賜り誠にありがとうございます。

皆様とともに卒業生を祝福できたことに感謝申し上げますとともに、日頃からの本学に対するご配慮に厚く御礼申し上げます。

本日、1,227名の学生が香川大学を卒業します。皆さんの晴れやかな顔を拝見すると、香川大学で過ごした、4年間あるいは6年間の時間が充実したものであったと確信しております。卒業生の中には10名の留学生がおります。留学生にとっては、慣れない日本での生活を乗り越えての成果であり、その努力を称えたいと思います。

この場にいる多くの皆さんが本学に入学した平成24年度の入学式の際に、私からいくつかの願いをいたしました。

1. 「これからの日本のあり方を真剣に考え、思策を深めて、眠っている能動的な心を鼓舞する」ということ、
2. 「人生は毎日が学修の継続であり、学修を通して、知識を得る楽しさ、学問の奥深さに気づいて欲しい」とい

うこと、3.「多様な生き方や異文化に接し、他の文化を理解し、自分の価値観を形成し、時代や社会の風潮に流されない批判性と創造性を身に付けて欲しい」ということ、そして「香川の地ならではの学生生活を楽しむ」ということです。

これらの私からの願いをどれくらい実践していただけたでしょうか。多くの方が学生生活の中で何らかの形で実践していただいたと信じています。

先に述べた姿勢や実践で育んだ力は、皆さんがこれから進むどのような社会においても必ず役に立ち、皆さんを支える基礎となる普遍的なものです。本日の卒業式を機に、どうか私のメッセージを今一度、頭の片隅に置き、これからの日々の生活の中でも更なる成長のための努力を続けてください。

21世紀になってもなお、世界各地で紛争やテロが絶えることなく、貧困などの問題も解決されておられません。また、日本を取り巻く環境も絶え間なく変化しており、皆さんは先が見えない、価値観が多様化した混沌とした時代を生きていかなければなりません。このような時代を生きるうえで、参考になる人物を紹介したいと思います。それは、NHKの朝のドラマで話題になっている主人公のモデルで、大阪を拠点に活動した実業家の広岡浅子氏です。彼女は、幕末から明治維新という先が見えない混沌とした時代を逞しく生き抜いた、明治を代表する実業家であり、教育者です。いくつかのエピソードを紹介しますと、彼女は、簿記、算術などの知識を独学で修得し、幕末の動乱の大変革の時代に対応し、家業の没落

を見事に防いだと言われています。また、炭坑の開発・経営、銀行の設立・経営、保険事業に参画するなどし、家業を関西有数の企業へと導いたとも言われています。さらには、女子への高等教育機関の先駆けとなる女子大学の設立に尽力し、女子の地位向上にも取り組み、自分の人生そのものを表すような「九転十起生」というペンネームを使っていたと言われています。これらのエピソードは、先が見えない価値観が多様化する時代において、既成概念にとらわれず自ら努力し、失敗を恐れずに行動することの大切さを教えています。

皆さんは卒業後、どのような道に進むのでしょうか。教員、医師、看護師、公務員、企業人、またはエンジニア等の研究職、さらに知識や技能を高める目的で大学院に進学する人など、様々な道に進まれると思います。これから皆さんが進む道には、これまで経験したこともないような様々な困難が立ちふさがっていることでしょう。自分独りの力ではどうすることもできないと感じるような時があるかも知れません。しかしながら、皆さんがこの香川大学で得た知識・経験、そしてかけがえのない友、恩師は必ず皆さんの力となり、支えとなってくれると思います。どうか皆さん、自分を信じ、強い意思をもち、常にベストを尽くして、前を向いて進んでください。

困難な時代の風の中を力の限り各々の判断で飛び、時には軌跡を振り返りつつ、明るい未来を切り開き、皆さんの将来が豊かなものになりますように祈念して、告辞といたします。

平成28年3月24日

香川大学長 長尾 省吾